

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症の診断基準 2020 の策定

研究分担者 坂田 泰彦 国立研究開発法人国立循環器病研究センター

臨床研究開発部 部長

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症(Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV) は、中性脂肪が心筋と冠動脈に蓄積して重症心不全・不整脈・冠動脈疾患をきたす難病であり、2008年に本邦より提唱された新しい疾患である。2009年から本疾患に対する検査法・診断・治療について研究が行われてきたが、今回診断基準検討委員会をたちあげ、再度検証を行い、「TGCV 診断基準 2020」を作成した。

A. 研究目的

大阪大学の心臓移植症例より見出された原因不明の難病である TGCV の診断基準を改訂すること。

でも満たす場合を疑診とした。作成した改訂診断基準を厚生労働省に報告し、英文論文として投稿した。

B. 研究方法

TGCV 診断基準検討委員会を設立し、TGCV に関する論文および学会報告を収集し解析して討議をおこない 2016年に定められた旧診断基準を改訂した。

(倫理面への配慮)

論文・学会報告をもとに検討しており倫理面の問題は存在しない。

D. 考察

「TGCV 診断基準 2020」の必須項目は長鎖脂肪酸代謝障害、あるいは心筋への中性脂肪沈着という本疾患の本質的な病態をあらわすものであり、その内容を反映する項目を必須項目とした。また心不全の指標として左室駆出率 40%未満を大項目に含めた。今回、旧診断基準において必須項目であったびまん性動脈硬化は大項目とされた。びまん性動脈硬化に関しては客観的評価が困難であることから、その参考となる画像集などの作成が待たれる。

C. 研究結果

2020年5月9日に TGCV 診断基準検討委員会を設立した。「TGCV 診断基準 2020」においては必須項目を3項目、大項目を3項目設定し、必須項目・大項目をそれぞれひとつ以上満たす場合を確定診断とし、確定診断に至らずとも必須項目をひとつ

E. 結論

「TGCV 診断基準 2020」を作成し、英文論文化した。今後、TGCV の早期診断・早

期治療につなげて「予防・健康づくりに
取り組み強化による健康寿命の延伸」に
役立てられることが期待される。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

Kobayashi, K., Sakata Y., et al. Th
e diagnostic criteria 2020 for trigly
ceride deposit cardiomyovasculopathy.

Annals of Nuclear Cardiology. 2020,
6(1), 99-104, doi.org/10.17996/anc.20
-00131

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし